

委員会の見直しについて

航空局 航空ネットワーク部 空港技術課
令和7年3月

委員会の見直しについて

- 現在の「**空港除雪の省力化・自動化に向けた実証実験検討委員会**」は省力化・自動化に寄与する実証実験を実施する上で必要となる、公募要領の検討・参加社の選定・実施内容の検討・結果の**評価等を行うことを目的として設置された**ものであり、当該委員会に関する規約についても同内容にて規定されている。
- 空港除雪の省力化・自動化の取組が、自動化に向けた取組へフェーズ移行するにあたり、令和5年度の同委員会において頂戴したご意見を踏まえ、**省力化の推進とともに自動化の本格的な検討に対応するために、委員会規約についても発展的に見直し**を行う。

委員会規約(変更案)

○ 委員会名

空港除雪の省力化・自動化に向けた検討委員会

今年度より自動化の取組にフェーズ移行するものの、引き続き、省力化の対象範囲の拡大に伴い運用評価やフォローアップを実施していく想定としており、「省力化」「自動化」の双方を対象とした委員会とする。

○ 第1条

空港除雪作業の省力化・自動化の実現を目的として、「**空港除雪の省力化・自動化に向けた検討委員会**」を設置する。

○ 別紙 委員名簿

大村 裕康 桜美林大学 総合研究機構 客員教授

菅沼 直樹 金沢大学 高度モビリティ研究所 教授

今後は「実証実験」に限定せず、より対象範囲を広げて省力化・自動化の取組を行うことを想定し、委員構成からは行政側を外すこととする。

設立趣意書(見直し前後)

現行

空港除雪の省力化・自動化に向けた実証実験 検討委員会

設立趣意書

現在、我が国の空港では、2030年の訪日旅客6,000万人の目標達成に向けて、積極的な機能強化が進められている一方で、生産年齢人口の減少に伴う労働力不足が顕在化しており、供給面での制約が懸念されている。航空局では、この課題に対応するため、官民が役割分担しながら、IoT、AI、自動化技術等の先端技術を活用した”航空イノベーション”を推進し、今後の我が国航空輸送の拡大を支えていく方針としている。

空港運用分野においては、除雪作業の労働力不足が懸念されており、省力化・自動化が求められている。航空局では、空港除雪作業の省力化・自動化を進めるにあたり、自車位置測定技術について、空港制限区域内において降雪・積雪状況で、実際運用する速度(最高40km/h)で実証実験を実施する予定としている。

本委員会は、実証実験に係る公募要領の検討、実証実験参加者の選定、実施内容の検討及び結果の評価について、委員から意見を聴取し、実証実験を的確に実施するとともに実装に向けた課題を抽出することを目的として設置するものである。



見直し後

空港除雪の省力化・自動化に向けた検討委員会

設立趣意書

現在、我が国の空港では、生産年齢人口の減少に伴う労働力不足が顕在化しており、供給面での制約が懸念されている。航空局では、この課題に対応するため、**最新技術の導入・開発等を目的として、官民一丸となって空港業務DXを推進する**方針としている。

空港運用分野においては、除雪作業の労働力不足が懸念されており、省力化・自動化が求められていることから、航空局では、空港除雪作業の省力化・自動化に向けた取組を進め、**そのうち省力化については、「空港除雪の省力化・自動化に向けた実証実験委員会」による取組において運転支援ガイダンスシステムの開発に一定の目処が立ち、運用に向けた検討フェーズに移行しつつある。今後は、空港除雪作業における省力化の推進を図ることと並行して、同作業の自動化に向けて取組む必要がある。**

本委員会は、**過年度まで実施していた「空港除雪の省力化・自動化に向けた実証実験委員会」における取組を継承し、空港除雪作業の省力化・自動化の実現を目的として設置するものである。**